

## 富士山（ランタン組トレーニング山行）

11月のランタンヒマール行は、OB6名、特別参加1名の計7名で計画が進められている。9月27日～28日、トレーニングのため富士山へ。

参加者 西村清亮、青木 博、久保田元久、米倉逸生の4名。

### 9月27日(土)

富士宮口新五合目駐車場集合13時。六合目の宝永山荘へ。富士宮口の営業小屋は六合目のみ。富士山の山小屋は基本的には八月末で終了する。

駐車場から30分ほどで標高2,490mの六合目・宝永山荘に到着。気温6度、天気、霧。結構寒い。到着後、青木、久保田は、高度に体を慣らすべく、更にも上に向かう。西村、米倉は宝永山荘に残留。標高2,500m、北アルプスの山小屋と同程度の高さだが、車で一気に上がるので高山病になる場合がある。高所での飲酒は呼吸を抑制し低酸素状態になり易いので「禁物」ということになっている。しかし、あまりに寒い。それに、実に手持無沙汰だ。どちらからともなく「ちょっと飲むか...」ということになった。適度な飲酒は血流を良くし、体を温める効果もある？、ということにして、熱燗を注文する。

ちびちび飲みながら、小屋に出入りする人の話を聞いている。ここの女将は気



さくというか、話好きというか、まったくよく喋る。それに声もデカイ。聞かなくても、どんどん耳に入ってくる。富士山に 553 回登っているナントカさん。一日に二回ずつ登頂して、明日 555 回目の登頂を迎えるという。不登校の生徒達を集めて合宿し、その締めくくりに一合目から富士山頂を目指し、今まさに登っているという話等々。

16 時半ころ久保田下山、17 時半頃青木下山。なんと、九合目まで上がったとのこと。

18 時夕食。焼酎お湯割りを「少し」の予定だったが、結局ボトルのほとんどを飲み切ってしまった。今日は高所順応の一環として「禁酒」も大切な目的だったが、早くも崩れ去ってしまい、先行きが大変心配である。夕食を終え、さっさと就寝。今宵の客は我々 4 名と、妙齢の女性が一人。2、30 人は入れる二階の大部屋を独占する。

## 9 月 23 日(日)

3 時半起床。夜半から風が強く、ゴウゴウと小屋を揺るがしていた。

4 時、ヘッドランプを点けて出発。富士宮の夜景がよく見える。少し霞んでいるが星空も見えていた。西村トップ。ゆっくりだが、着実なピッチを刻む。5 時半、七合目上で夜が明ける。露岩には氷柱が下がっている。



八合石室

既に氷点下の世界だ。

それにしても凄い風。時折バランスを崩し持っていかれそうになる。

八合目 6 時半。風は益々強く小屋の陰に身を寄せて休む。天気高曇り。雲海は五合目辺りににかかっている。九合、九合五勺と小屋ごとにピッチを刻み、午前 8 時 30 分富士宮頂上、浅間神社に到着する。風が巻いて、どうやっても風から逃げられない。みるみる体温が奪われていく。遂にダウンを出して着る。一服した後 9 時、剣ヶ峰 3,776m に達する。山頂付近の風速は 20m 近くあって、馬の背の通過では吹き飛ばされそうになる。それなのに、山頂の旧富士山測候所では、吹き上がってしまうせいか、ほとんど風を感じない。頂上でスロベニアの 4 人組と会う。バッテリーがあがって記念写真が撮れないので、メディアをこちらのカメラに移して撮ってあげる。外人は寒さに強い？。彼等のうちの



一人はなんと短パンだ。

浅間神社に戻り下山開始。雪の無い下りはつらい。古傷の膝をかばいながらゆっくり下る。12時半、六合目宝永山荘着。名物・富士宮焼そばの昼食。五合目に下る。11月、成田での再会を誓って解散。

剣ヶ峰 3,776m